

新しい学校事務の在り方を探る

—学校予算の「効果的な執行」を目指して—

香芝市立志都美小学校 主査 逸 崎 さなえ

Itsuzaki Sanae

要 旨

学校予算の効果的な執行にむけて、校内の体制づくりをどのようにしていけばよいか、事務職員として、予算面からの学校運営への参画を目指し、効率のよい予算執行の在り方を探った。

キーワード： 予算執行、節約、効率、校内予算委員会

1 はじめに

現任校に赴任する前に勤務していた中学校は、事務職員が複数配置されており、主に市費事務職員が財務を担当していた関係で、財務に一切携わっていなかったが、平成16年に現任校に転勤し、会計用語や項目、伝票処理を理解することから業務を始めることとなった。1年間の予算執行について、計画を立てる余裕もなく、前年度の書類を見ながら予算を執行していくことで精一杯だった。そのような中、学校配当予算が10～15%削減され、財務担当者として、大きな壁に直面した。限られた予算の中で、子どもたちが豊かで充実した学習のできる環境づくりを目指すために、効率よく予算を執行するにはどうしたらよいかを考察した。

2 研究目的

本市の財政が厳しくなり、配当された学校予算を効率よく執行していくためには、何をどのように節約し、見直せばよいか。前年度、前々年度の執行状況を参考にしながら、また、教職員の予算に関する理解を図りながら、効果的な予算執行の在り方について考察する。

3 研究方法

- (1) 学校に配当される予算科目について確認する。
- (2) 過去の執行状況を調査し、効果的な学校配当予算の執行の在り方について考察する。
- (3) 教職員の共通理解を図る。

4 研究内容と考察

- (1) 学校に配当される予算科目について

ア 学校予算とは

学校予算は、大きく分けると「教育委員会が直接執行する予算」「教育委員会より学校に配当される予算」「保護者に負担いただく納入金」の三つに分けられる。

- (ア) 教育委員会が直接執行する予算

大規模な施設改修工事費や電気代・水道代、校庭整備費、保守点検費用など、教育委員会が計

画し執行する。

(イ) 教育委員会より学校に配当される予算

年度当初に予算配当され、用途に応じた様々な費目に分かれて配当額が提示される。

(ウ) 保護者に負担いただく納入金（学校徴収金）

学校給食費、学年費、校外活動費など、児童・生徒の学習活動に必要なものであり、受益者負担として保護者が負担するもの。

以上、三つの学校予算の中で、学校事務職員が携わっている一番比重の大きい「教育委員会より学校に配当される予算」についてまとめてみた。

イ 本市の学校予算配当科目

表1は、学校に配当される予算（学校管理費）の表である。節、細節、細々節に分けられており、細節の項目ごとに予算が配当される。

表1 学校管理費

節	細節	細々節	内容
	報償費		謝礼
	旅費	普通旅費	市職員出張旅費
需用費	消耗品費	(表2)	
	燃料費	ガソリン	
		灯油	
		混合油	
	食糧費	行事等賄	児童用お茶
	印刷製本費	帳票及び事務用紙等印刷費	各種帳票印刷代
		現像代	写真現像・プリント代
	光熱水費	ガス料金	ガス代
	修繕料	車両修繕料	公用車修繕
		機械器具修繕料	機械・備品修繕
施設修繕料		ガラス入替、施設修繕	
飼料費	飼料費	ウサギ・鳥の餌代	
役務費	通信運搬費	郵便料	切手代
		運搬料	小荷物送料
	手数料	樹木管理手数料	植木剪定・剪定処分
		調律手数料	ピアノ調律
クリーニング代		クリーニング	
使用料及び賃借料	ガス漏れ警報器リース料		
	教材運搬及び救急児童運搬車借上料	車借り上げ タクシー代	
原材料費		砂・土等	砂・土・資材等
負担金補助及び交付金		研修会参加負担金	研究会参加費補助

表2は、需用費の中の消耗品費を細々節に項目別に分類したものである。

表2 消耗品費細々節一覧

項 目	内 容
新聞代	
追録代	
定期刊行物等購読料	学校放送・少年写真ニュース
書籍購入費	規程集・資料代
事務用消耗品費	インク・マスターロール・チョーク・パソコンインク
行事用消耗品費	花代・運動会用消耗品・ロール模造紙・おはながみ カセットテープ・DVテープ
施設用消耗品費	蛍光灯・消火器詰替
コピー代	コピー
共用物品購入費	本市指定の消耗品
教材等消耗品費	理科の薬品・クラブ消耗品
環境整備用消耗品費	ワックス・掃除用具・園芸用品・ペンキ・花の種
医薬品等消耗品費	保健室薬・プール用薬品・消毒液
給食用消耗品費	子ども用給食エプロン
指導書・副読本等	安全・体育・道徳・奈良県のくらし
教科書改訂に伴う指導書	

※香芝市事務研究会発行「財務会計事務の手引き」より抜粋

(2) 効果的な予算執行について

ア 学校予算を担当して

1年目は、会計用語や節・細節等の分類、伝票処理の仕方も分からず、前年度の伝票を見ながら予算を執行することで精一杯だった。また、予算要求書も前年度分を写すだけに終わってしまった。前任校では、事務職員複数配置であり、財務会計には一切かかわっておらず、「予算」の流れさえも分かっていなかった。最初は、予算執行の流れと内容について理解することから始まったが、この年の管理職は、筆者が初めて財務を担当する事情をくんで、備品要求時には教員からの要求をまとめてくださったり、講演会が近づけば、講師謝礼について事前に声をかけてくださったりと、その時々には気にかけていただいたお陰で、戸惑いながらもスムーズに執行できた。また、市内の事務職員にも伝票処理の仕方を教えてもらったこともあった。このようにして、多くの方に助けられ、1年目は何とか乗り切ることができた。

2年目になり、伝票不備で書類が手元に戻ってくることもあったが、1年間の予算執行について一応理解し、少し余裕も出てきたので、学校行事等で必要な物品も計画的に準備するように努めた。しかし、この頃から市の財政事情が一段と厳しくなり、学校予算も削減された。節によっては10～15%削減され、前年度同様の予算執行ができなくなり、配当された予算を効率よく執行するにはどうすればよいか、また何が削減できるかを考えなければならなくなった。そこで、過去の予算執行のデータを考察することで、効果的な執行を試みた。

イ 過去のデータより

表3 児童数と学級数

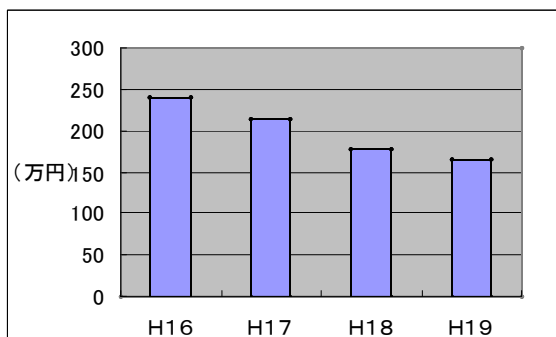
本校は表3のように、児童数、学級数が年々、緩やかではあるが増加している。これには、平成17年度末に行われた校区変更が影響しており、今後も数年間は、

	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度
児童数	217	213	239	277
学級数	9	9	11	12

(平成19年5月1日現在)

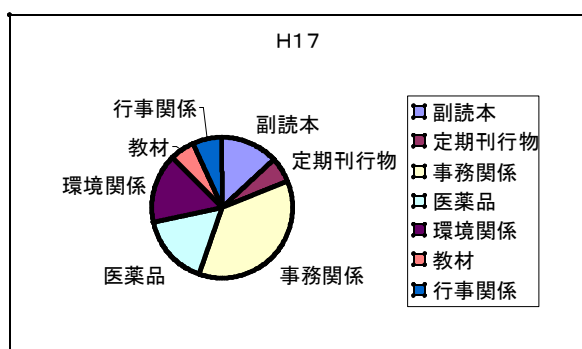
増加傾向が予想される。そのような中、効率よく予算を執行していくためには、教職員の理解と協力が不可欠である。理解と協力を得るには、身近な項目の方がよいと考え、学校予算のうち、教職員にとって身近な需用費の中の消耗品費と印刷製本費を取り上げた。

(ア) 消耗品費について



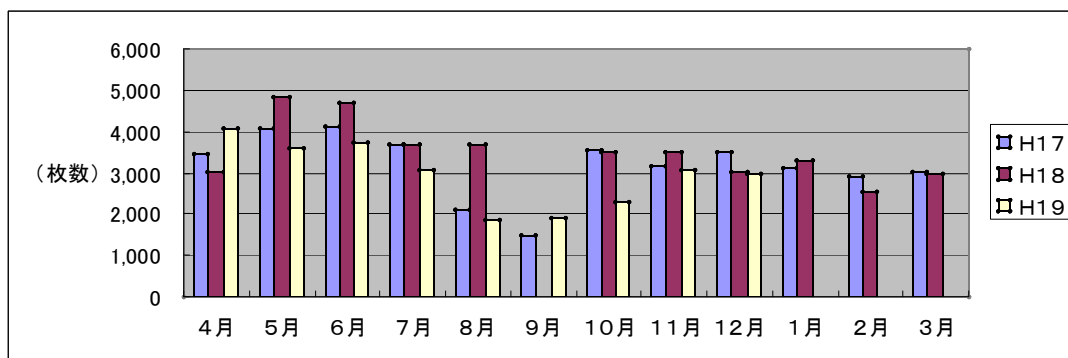
グラフ1 消耗品費配当額

グラフ1は、消耗品費の配当額の推移である。平成18年度から児童数が増えているにもかかわらず、配当額が減少している。昨年度と同様の物品購入をしているでは配当額を超えてしまう。注文個数や物品そのものについても教職員の協力を得て、検討する必要がある。



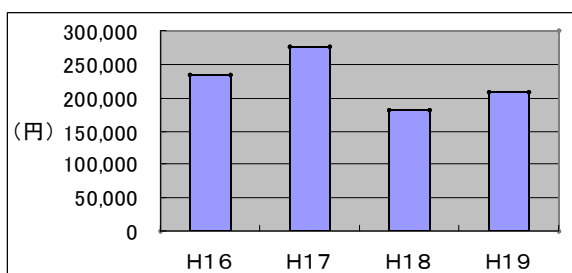
グラフ2 消耗品細々節別執行割合

グラフ2は、表2 消耗品費細々節一覧の項目ごとに大別した平成17年度分の執行割合のグラフである。この中で、事務関係が全体の35%、医薬品が16%と大半を占めていることがわかった。そこで、大半を占める、事務関係消耗品の中からコピー使用枚数と、医薬品消耗品の中からプール用薬品のハイクロン使用量について調べることにした。



グラフ3 コピー枚数

グラフ3は、事務関係消耗品費の中のコピー枚数をグラフにしたものである。(平成18年9月分が空白になっているのは、前月の8月分に含まれているためである。)平成18年度より教職員にコピー1枚あたりの単価を知らせ、また、コピー機の横に「10枚以上は印刷機を使用してください」「両面コピーをしてください」「ミスプリントは捨てずに裏面を使用してください」等、少し意識すれば全員で協力し合えるようなことをお願いした。最近ではミスプリントの裏面使用にも、進んで協力してくれている。徐々にではあるが、使用枚数も減少してきた。



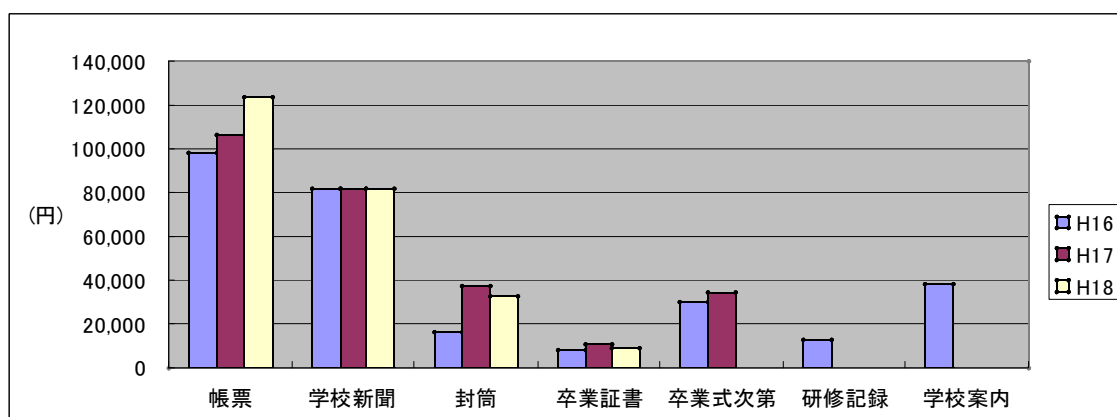
グラフ4 ハイクロン執行額

グラフ4は、医薬品消耗品費のプール用薬品の中のハイクロン使用量の執行額のグラフである。平成18年度の購入額が低いのは、前年度の在庫があったためである。ハイクロンのまとめ置きを避けるため、品質や価格について、教科担当者と相談の上、年間の必要最小限の個数を注文するよう心がけた。

このように、発注のスリム化をすることによって、効率よく予算が執行できると考えた。ハイクロンの単価が高額であることを教職員に知ってもらうことで、今まで以上に慎重に使用するようになった。

(イ) 印刷製本費について

次に、印刷製本費について調べてみた。平成18年度からの校区変更に伴う児童数の増加で、指導要録や通知表等、特に帳票についての執行額が増えている。これから数年間は児童数が増加傾向にあるので、帳票の印刷費は多くなる。その分を何かで節約（削減）できないか、管理職や教務主任と相談し、学校で印刷できるものを検討し、平成17年度は、今まで印刷業者に依頼していた学校案内を学校で印刷し、同じく印刷業者に依頼し製本していた研修記録をCD化することにより、印刷費の削減につなげた。それに加え、平成18年度は、卒業式次第も学校で印刷した。その結果、平成16年度と比較して、平成17年度は約20%、平成18年度は約30%の削減ができた。



グラフ5 印刷製本費

このようにして、管理職や教務主任に相談し、また、教科や係の担当者の協力を得て、効率よく執行することができた。さらなる予算執行の効率化につなげるために全教職員の協力が必要であり、予算に関する教職員の共通理解が大切だと考えた。

(3) 教職員の共通理解

ア 口頭での伝達

今まで、教職員への連絡事項等の伝達は、朝の打合せや職員会議の場を利用して口頭で行っていた。内容は、予算の削減、備品要求、予算要求が主であった。しかし、筆者が説明しても、口頭ではやはり一方通行で、なかなか実行してはもらえなかった。どうすれば筆者の思いが伝わるのか、いろいろ考えた末、「文書」で提示する方法が効果的であると考えた。

イ 資料の配付

口頭ではなく、文書で教職員に伝達するためには、どのような事に気をつけて作成すればよいかを考えた。特に、予算についての「会議資料」は、内容的に堅くなりがちなので、できるだけ簡単に、また、興味を持って読んでもらえるよう心がけた。

(筆者が教職員に知らせたこと、働きかけたこと)

- ・頻繁に使う物品のうち、意外と高価なプール用ハイクロン、印刷機のインクとマスターロール、掃除用ワックス等それぞれの単価を知らせた。
- ・コピーや印刷のミスプリントを保管するため、サイズ別に箱を作って機械の横に置いた。
- ・両面コピー、同じものの複数コピーは2枚並べてするほうが安い等、上手なコピー機の使い方や、ミスプリントの裏面使用といった活用方法を知らせた。

(教職員の反応)

- ・ハイクロンや印刷機のインク、マスターロール等が高価であることに驚き、購入時に最低限の量を購入することに協力的になった。
- ・〇枚なら、コピーと印刷とどちらが安い?と聞いてくれるようになった。
- ・簡単な連絡文書は、ミスプリントの裏面を使用してくれるようになった。
- ・あまり読んでいない雑誌について「検討してみたら?」と提案してくれた。

このようにして、教職員の学校予算に対する理解も進み、筆者自身も仕事に対する意欲が出てきた。今までは、財務に携わっていなかったことを言い訳に、学校の環境整備について、あまり関心がなかった。しかし、今、財務に携わり、また、余裕が出てきたことにより、筆者自身、環境整備にも積極的に関わろうとする意識が芽生えた。玄関わきに置かれたままの鉢植えの木を事務員さんに手入れしてもらい、クリスマスツリーに見立てて飾ってみた。それを玄関に飾ったところ、その前を通った子どもが「かわいい」と喜んで声をかけてくれた。教員とは違い、普段は子どもたちとの直接的な関わりはないが、子どもの喜んだ顔を見るのは嬉しいと改めて感じた。またある時、教職員との会話で、「アクリルタワシを使えば洗剤が節約できる」という一言にヒントをもらい、実際に毛糸でアクリルタワシを作ってみた。子どもたちが興味をもって使ってくれるように鮮やかな色を選び、また子どもの小さな手に持ちやすいように大きさや形を考えて作った。手洗い場の掃除のときに大量に洗剤をつけて洗っていたので、アクリルタワシを使うことにより、少しは洗剤の節約につながると思った。このように、いろいろ工夫することにより、予算に余裕ができ、子どもたちの教育に必要な物品を購入することができる。そのことが、よりよい予算執行につながると考える。また、学習指導要領の改訂にともない、年間授業時間数が増えたり、学習内容が変わったりすることにより、必要な教材備品も変わってくる。学習指導方法は別にして、教科書に出てくる指導内容を知る必要がある。教科書に目を通し、学年別、教科別におおよその学習内容を知ること、授業で必要な教材備品を把握することができる。適切な備品購入が子どもたちの充実した学習環境づくりにつながると考える。

5 今後の課題

更紙や文具類等、日々の生活で使用する消耗品の節約や、通知表や出席簿等の帳票の印刷物、また、行事を通して使用する色画用紙や模造紙、マジック等の物品購入については教職員の共通理解と協力が不可欠である。そこで、校内予算委員会の必要性を感じ、本校向けに立ち上げることを検討していきたい。

市内の学校に「校内予算委員会」について聞いてみたところ、委員会として設置している学校、していない学校、また構成メンバーも事務職員と管理職、そこに教務主任や学年代表が入っている学校等、現状に合わせていろいろな形があった。設置していない学校でも、その都度管理職に相談したり、どんなことでも全職員に報告する等、別の形で委員会と同じ内容を行っているようだった。いずれにしても、やはり職員間のコミュニケーションが大切であると思う。今すぐに本格的な「校内予算委員会」を設置するのは難しいかも知れないが、管理職や教務主任と連絡を密にとることから始めたい。また、定期的に予算執行についての情報を伝え、職員とのコミュニケーションを図りながら、その中で聞こえてくる「声」に耳を傾け、効果的な予算執行につなげていきたいと考えている。

参考・引用文献

- | | |
|-----------------|----------------|
| (1) 学校事務誌各号 | 学事出版 |
| (2) 研究部作成リーフレット | 奈良県公立小中学校事務研究会 |